

2024年12月22日 第二礼拝 クリスマス礼拝 ～愛の灯～

説教題「その名はインマヌエル」 マタイ福音書1章23節

主任牧師 加藤

誠

**『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は『神は我々と共におられる』という意味である。』（マタイ1:23）。**

「神さまチョイス／神さまプラン」というものがあります。「神さまの選び／神さまの計画」です。私たち人間から見ると「えっ、どうして？」と理解できない選びだったり、計画だったりする。けれどもあとで振り返るとパーフェクトなのです。プロ野球のドラフト会議は人間的に「優秀な選手」から選ばれていきます。しかし神の選びは人の選びと異なります。「人は目に映るところによって見るが、主は心によって見る」（サムエル上16:7）。神は心を見られる方。当時、誰も目を留めることのなかったマリアとヨセフという貧しい夫婦を神はお選びになり、ご自分の大切な独り子を託されました。端から見ると無謀な選びと計画に思えましたが、神は知っておられました。マリアとヨセフには赤ん坊の親になる信仰があることを。それでも「聖霊による懐妊」は誰にとっても信じがたいことであり、マリアとヨセフも戸惑い、揺さぶられ、疑いや不信にかられてその関係は崩壊寸前まで追い込まれますが、しかし二人は聖霊の励ましを受けて危機をくぐり抜け、神の選びと計画に応えたのでした。

クリスマスに生まれた神の独り子。「その名はインマヌエルと呼ばれる」。インマヌエルとは「私たちと共にいる神」という意味のヘブライ語ですが、「神が私たちと共にいる」とは、聖書ではどういう意味なのでしょう。

その昔、モーセは、ヘブライ人がエジプト人に虐げられているのを見過ぎしにできず、正義感からエジプト人を殺めてしまいます。が、その行為は人々に受け入れられず、殺人犯として指名手配されたモーセは荒れ野に逃げました。彼の正義感による行動はあえなく挫折し破綻したのです。モーセは自らを「生きるべき場所を失ったさすらい人」と呼びました。そのモーセを神が呼び出します。「わたしはあなたと共にいる。エジプトに戻り、虐げられているヘブライ人たちをファラオの手から解放せよ」。モーセは「わたしはエジプトで挫折した男です。あのファラオに太刀打ちできるわけがないじゃないですか！」と拒みますが、神はこう語ります。「あなたの力でファラオに向かい合うのではない。あなたと共にいるわたしが向かい合うのだ。この杖を握りしめて行け」と。「私たちと共におられる神」は、この世界で失敗し挫折を味わい、小さくされた者を立ち上がらせ、ご自分の働きに用いられる方なのです。

またその昔、イスラエルの人びとは自らの高ぶりのゆえに神の約束の地を失い、バビロン捕らえ移されます。人びとはバビロンの川べりで毎日故郷を想って涙を流し、嘆きました。約束の土地もエルサレム神殿も失い、神からも見放された異郷の地でどうやって生きていったらいいのかと。その彼らに神は預言者エゼキエルを通して語られます。「わたしはささやかな聖所となってあなたたちと共に歩む。この異郷の地を大切な礼拝の場所としなさい。ここに住む人々の繁栄を祈り平和に暮らしなさい」と。「私たちと共におられる神」は、私たちがいま置かれている場所を恵みの場とし、悲しみと嘆きを祈りと賛美に変えて、一緒に生きる人々とつなげてくださる方なのです。

そしてマリアとヨセフ。先ほども紹介したように、二人にとって神の選びと計画に答えていくことは大きな戸惑いであり、チャレンジでした。二人の信頼関係に亀裂が入り、崩壊寸前まで追い込まれます。けれども天使の言葉がマリアを支え、ヨセフの不信を信頼に変え、嘆きを優しさに変えていきます。神の愛と励ましの聖霊の息吹が、二人の信頼関係を紡ぎ直して新しくしていきます。再構築です。「私たちと共にいる神」は、神を信じ切ることができずに恐れ戸惑う私たちに、信仰を注ぎ、神のもとにある希望と一緒に仰ぎ見て歩む私たちに建て直してくださる方なのです。

「足あと」という題名の詩があります。ある人がある晩、夢を見るのです。浜辺をイエス・キリストと共に二人で歩いている夢です。その人がふと自分が歩いてきた方向を振り返ると、これまでの人生のさまざまな場面が思い起こされたのでした。歩いてきた砂浜には、二人分の足跡が残されている部分もあれば、一人分の足跡しか残っていない部分がありました。その人はキリストに尋ねます。「なぜあなたは、わたしの人生のもっとも試練が厳しく、悲しみに沈んでいた時に、わたしと一緒に歩んでくださらなかったのですか？」と。するとキリストはこう答えられます。「わたしはいつも、どんな時もあなたと共に歩んでいたよ。一人分の足跡しか残されていない部分は、わたしがあなたを背負って歩んでいた時なのだよ」と。「私たちと共におられるインマヌエルの神」は、私たちが神を見失い、隣り人を見失い、孤独に沈む、一番暗い時を共に歩むだけでなく、私たちが一人で歩く力を失った時に、私たちの弱さを引き受けて、背負って歩んでくださる方なのです。

「わたしの選び／わたしの計画」だけで自分の人生を見ると、神と隣り人を見失うことが起こります。「どうして思うようにならないのか。神さま、あなたはどこにおられるのですか」と。そのように神を見失い、隣り人を見失い、暗闇の中に沈む私たちを探し出して、神の愛につなぎ直すために、イエス・キリストは「インマヌエルの主」として生まれてくださいました。信仰薄き私たちに「神の選び、神の計画」を生きる祈り

と信仰を注ぐために、私たちと共に生きてくださるのです。

飼い葉桶の貧しさの中に生まれ、十字架の苦しみの中に死んでいかれたインマヌエルの主は、私たち人間の罪をすべて受け尽くし、どんな時も私たちを背負い続けてくださる方です。このインマヌエルの主の愛と赦しを心の真ん中に受けていくクリスマスとなりますようにと祈ります。